

日本英語教育史学会 会報

297

2020 年 2 月 14 日

HiSELT Society for Historical Studies of English Learning and Teaching in Japan

日本学術会議協力学術研究団体 日本英語教育史学会

発行人 日本英語教育史学会 (代表: 江利川春雄)

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562
 県立広島大学 庄原キャンパス 河村和也研究室
 tel: 0824-74-1727 fax: 0824-74-0191
 e-mail: membership@hiset.jp

会費納入口座 (名義人: 日本英語教育史学会)
 ゆうちょ銀行【振替口座】00150-3-132873
 ゆうちょ銀行〇一九店【当座口座】0132873

学会公式ウェブサイト www.hiset.jp

第276回研究例会報告

2020 (令和2) 年 1 月 11 日 (土), 順天堂大学 お茶の水キャンパス第2教育棟 303 教室 (東京都文京区) において第 276 回研究例会が開催されました。参加者は 17 名でした。

例会では 2 本の研究発表が行われました。はじめに, 青田庄真氏 (筑波大学) と酒井秀翔 (筑波大学学生) が「日本の自治体における外国語教育政策の波及: 1970 年代以降の各都道府県の「研究テーマ」を手がかりとして」というタイトルでお話しされました。続いて広川由子氏 (愛知江南短期大学講師) による「講和後におけるロックフェラー財団のフィランソロピー戦略」の発表が行われました。司会は久保野雅史氏 (神奈川大学) でした。以下に参加者の感想を掲載しますのでご参照ください (①は青田氏及び酒井氏, ②は広川氏の発表への感想です)。

◇ ◇ ◇

◆①自治体の英語教育政策は興味深いと思いました。近隣自治体への波及も面白い資料でした。大阪がやっているけど兵庫県が取り組んでいないなど, 神奈川も含めて先進的と思われる自治体がなぜ「革新的」取組がなされなかった理由が知りたいと思いました。(Cypress)

◆①自治体レベルの外国語教育政策研究はほとんどなされておらず, その間隙を埋める貴重な研究だと思いました。勤務先の学部生に共同発表の機会を与えたことも, 大学教員として素晴らしいことだと思います。データ者の計量化は大変だったと思いますが, 数値で示されると説得力があります。他方, 自治体ごとの英語教育に関する研究テーマ決定に, 指導主事の個人的関心などの主観が入る余地があるかと思います。そうなると, せっかくの計量化の信頼性が揺らいでしまいますので, いくつかのサンプル調査でも結構ですから, 研究テーマを誰がど

う設定したのかを検証すれば, さらに説得力が増すと思います。また, 結論部分では, 外国語教育政策における中央政府と地方政府 (自治体) との一致点と齟齬とをより明確に提示されることを願っております。(みかん舟)

◆②刺激的な発表であったと思います。自分でも同じような興味を持って文献を調べておりますので興味深く拝聴しました。資料, 史料発掘の重要性を確認しました。(Cypress)

◆②アメリカでの現地調査を含め, 一次資料に基づいた緻密なご研究で, 戦後におけるロックフェラー財団の英語教育方針を実証的にご提示された意義は大きいと思います。フロアからの意見にもありましたように, 中心となった「ブライアント報告書」などが ELEC の設立や日本の英語教育にどう影響したのかの考察をさらに進めて頂きたいと思います。また, 松田武氏は『戦後日本におけるアメリカのソフ

ト・パワー：半永久的依存の起源』で、同財団などの対日英語教育政策を、冷戦下での親米国民育成のためのソフト・パワー戦略であると位置づけています。他方、広川先生は今回それを慈善事業的なフィランソロピー戦略と位置づ

け直しました。そうであるならば、ぜひ松田説に対する説得的な反論をお願いしたいと思います。私見では、松田氏のソフト・パワー戦略の方が説得力があるように思いますが。

(みかん舟)

<発表を終えて>

青田 庄真 (筑波大学助教)・酒井 秀翔 (筑波大学学生)

この度は、貴重な東京例会の場で発表の機会を頂き、誠にありがとうございました。この度は、勤務校とともに勉学に励んでいる学生の酒井さんと共同で発表させて頂きました。お恥ずかしながら、今回の発表はこの例会のために時間をかけて準備をしてきた研究と言えるほどのものでは到底なく、日頃の研究活動の一環として彼と一緒に集めてきたデータについて、例会の場をお借りして現況報告させて頂くという形になりました。具体的には『英語教育』（大修館書店）の増刊号にて連載されていた自治体の研究テーマ（以下、政策）を集め、①その全体を要約すること、および②政策の広がり方（波及）について傾向を導き出すことを試みました。結果として、教育機器やALTに関する政策が多いことや、政策が比較的近隣の自治体に波及していく事例が確認されたことなどを報告しました。質疑応答では、特に波及の背景となる様々な歴史的要因についてご助言をいただいたことで、今後の研究の方向性が大いに見えて参りました。当日は質の高い質疑や励ましのお言葉を頂き、改めて日本英語教育史学会の魅力を再認識した次第です。今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。



<発表を終えて>

広川 由子 (愛知江南短期大学講師)

今回の例会でも参加のみなさまから多くの有益なご意見を頂きましたこと、感謝申し上げます。今回は「ブライアント報告書」に焦点を当ててお話しさせていただきました。まずは「ブライアント報告書」の存在を一人でも多くの方に知っていただきたいと考えたからです。この報告書は1954年にコロンビア大学のブライアント教授が日本に3か月間滞在して行なった日本の英語教育実態調査の結果をまとめたものです。その費用は米国ロックフェラー財団と関連の深いジャパン・ソサエティによって賄われました。ところが「ブライアント報告書」はジャパン・ソサエティ内部で批判されてしまったため、その存在および内容はこれまでほとんど研究の俎上に載せられることはありませんでした。それだけに原史料を読み解いていくときのわくわくする気持ちは今でも忘れられません。発表では、ブライアントの目に日本の英語



教育がどのように写ったのかという点を重要視しました。ブライアントが日本国内では見えにくい問題を赤裸々に指摘している点は今日日本の英語教育問題を示唆しているようにも思え、学習者の視点に立った英語教育実現の一助になればと願うばかりです。今後もみなさまから頂いたご意見に真摯に応えていきたいと考えています。

》 事務局より

》 理事会を開催

第 276 回研究例会に先立ち、1 月 11 日 (土) 11 時 00 分より順天堂大学御茶ノ水キャンパス第 2 教育棟において 2019 年度第 1 回定例理事会が開催され、以下の件が話し合われました。

(1) 第 36 回全国大会 (大阪大会) について

本年 5 月に大阪大学豊中キャンパスにおいて開催予定の第 36 回全国大会 (大阪大会) について、その概要を決定しました。詳細は 3 ~5 ページをご覧ください。

(2) 投稿論文の審査結果・学会賞候補について

今年度の審査結果ならびに学会賞の候補について、論文審査委員会より報告を受けました。5 本の投稿のうち、1 本が論文として、3 本が研究ノートして掲載との結果になっています。

(3) 次期役員体制について

会長・副会長の任期満了にともない、今年度の全国大会時に開催される会員総会において役員選挙を行うことを確認しました。事務局が選挙管理を担うこととし、4 ページに掲載の通り立候補を受け付けます。

(4) 研究例会発表規程の改正について

発表資格として「入会后 1 年を経過した会員」とありましたが、この部分を削除することにしました。

(5) その他

以下のことを話し合いました。(a) 著作賞の候補について、(b) 論文審査方法の改正について、(c) 紀要への広告掲載について。

(文責：事務局長)

》 会費納入について (お礼とお願い)

会費の納入にご協力くださりありがとうございます。会計年度は 4 月より翌年の 3 月までとなっております。今年度および昨年度の会費を未納の方は年度末までにご送金くださいますようお願い申し上げます。未納のみなさまへのご案内は順次お届けしておりますので、引き続きのご協力をお願い申し上げます。

なお、2 年連続して会費の納入がない場合には退会の手続きを取らせていただくことになっております。該当の方には年度末までに連絡申し上げますので、よろしくご対応くださいますようお願いいたします。

年会費 一般：5,000 円／学生：3,000 円（学生会員は初年度に限り無料となります）

送金先 【1】 ①郵便局で払込取扱票をご利用の場合

②ゆうちょ銀行の総合口座よりご送金の場合

→ ゆうちょ銀行 [振替口座] 00150-3-132873

【2】 ゆうちょ銀行を除く金融機関の口座よりご送金の場合

→ ゆうちょ銀行〇一九（ゼロイチキュウ）店 [当座口座] 0132873

【公示】次期会長・副会長の選挙について

一昨年の全国大会で選出された江利川会長，馬本・田邊両副会長は，本年 5 月をもって任期満了となります。次期会長・副会長については大阪での第 36 回全国大会の際に開催される会員総会において互選しますが，それに先立ち，事務局内に選挙管理委員会を置き立候補を受け付けます。立候補者は，3 月 13 日（金）までに任意の書式をもって郵便，信書便もしくは電子メールで選挙管理委員会までお届けください。

*立候補の届け先

郵便・信書便の場合：〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562 番地 県立広島大学
河村和也研究室気付 日本英語教育史学会選挙管理委員会

電子メールの場合： membership@hiset.jp

日本英語教育史学会第 36 回全国大会（大阪大会） 参加および研究発表申込みのご案内

2020 年度の全国大会は大阪府豊中市で開催します。どうぞ奮ってご参加ください。

期 日：2020 年 5 月 16 日（土）・17 日（日）

会 場：大阪大学豊中キャンパス（大阪府豊中市待兼山町 1-8）

- ・大会初日（16 日）には，「国際英語」の理念に基づく英語教育の研究・実践で国際的にもご著名な日野信行先生（大阪大学大学院言語文化研究科教授）を講師にお迎えした講演，「『国際英語』教育の研究における歴史的考察の意義」（仮題）を予定しております。
- ・皆さまからの研究発表のお申込みをお待ちしております。発表時間は質疑応答を含めて 25 分です。
- ・大会参加費は以下の通りです。全国から多数のご参加をお待ちしております。
【会員】一般：1,000 円／学生：無料 【非会員】一般：500 円／学生：無料
- ・懇親会は 5 月 16 日（土）に大阪大学豊中キャンパス近辺で開催予定です。会費はお一人 5,000 ～ 6,000 円を予定しています。

- ・大阪大学豊中キャンパスは、阪急電鉄宝塚線「石橋阪大前」駅から徒歩約 15 分、大阪モノレール「柴原阪大前」駅から徒歩約 10 分です。大阪（伊丹）空港からはモノレールで 2 駅、東海道・山陽新幹線「新大阪」駅からは地下鉄（御堂筋線・北大阪急行）とモノレールを乗り継いで約 40 分です。
- ・宿泊先は各自でご手配ください。大阪大学豊中キャンパスへは、新大阪～梅田周辺、地下鉄御堂筋線・北大阪急行沿い、阪急電鉄宝塚線沿い、大阪（伊丹）空港周辺でのご宿泊が便利です。
- ・大会プログラムの詳細につきましては、次号の会報をお待ちください。
- ・大会参加費、および懇親会参加費は、大会当日、受付にてお支払いいただく予定です。

◆ 大会参加、および研究発表の申込みについて

大会参加、および研究発表希望者は、必要事項を明記のうえ、3 月 13 日（金）必着にて、大会事務局までお申込みください（担当：榎本）。発表の曜日や時間帯についてご要望がございましたら、併せてお知らせください。

※ 郵送版の会報をお読みの皆さまには、この会報に「第 36 回全国大会参加申込書」を同封しております。郵便はがきとなっておりますので、お手数ですが、ご投函の前に 63 円切手をお貼りくださいますようお願い申し上げます。

※ 電子版会報をお読みの皆さまには、別途、全国大会のご案内を電子メールで差し上げますので、そちらのメールにご返信ください。

◆ 発表予定者へのお願い

大会での研究発表をお申込みの方には、ご発表の内容を 1,000 字程度にまとめた要旨の作成をお願いいたします（3 月 31 日（火）必着）。要旨集は簡易なレイアウトとなりますので、複雑な組版をご使用の場合は B5 判の印刷原稿（版下）を郵送してください。

※大会参加等のお申込み、発表要旨の送付先：

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-8 大阪大学大学院言語文化研究科 榎本剛士宛
e-mail: taikai@hiset.jp * 郵便の場合、「発表要旨在中」と添え書きください

)) この先の研究例会・全国大会

◆ 第 277 回研究例会 2020 年 3 月 21 日（土）京都で開催予定

→日程や場所は変更される場合があります。その際は会報およびウェブサイトでお知らせします。

研究例会での発表希望者は、(1) 発表希望月、(2) タイトル、(3) 発表概要 (100～200 字程度)、(4) 使用予定機器、以上の 4 点を明記の上、発表希望月の 3 ヶ月前の 10 日（7 月発表希望であれば 4 月 10 日）までに日本英語教育史学会例会担当へお申し込みください。

Email: reikai@hiset.jp

日本英語教育史学会 第 277 回 研究例会

日 時： 2020 年 3 月 21 日 (土) 14:00～17:00

場 所： 真宗教化センター しんらん交流館 (京都市下京区諏訪町通六条下ル上柳町 199)

研究発表①

「台湾の高等学校英語教科書で取り扱われる文学作品が培う学力
—1995 年「課程標準」, 2008 年「課程綱要」準拠版教科書から」

平井 清子 (北里大学教授)

【概要】台湾の高校英語教科書の題材内容を調査すると、その大きな特色として、実用英語とともに「文学」を重視し、言葉の美しさはもとより、文学作品から高校生に必要な人生観、倫理観、そして恋愛観などを育てていることがあげられる。本研究では、1995 年と 2008 年「課程標準」準拠版教科書の題材内容を特に「文学」に焦点を絞り、どのような内容の文学教材が取り扱われているか、それら文学教材が培う学力という観点から調査・分析し、日本の英語教育への応用を探る。

研究発表②

「戦前日本の英語教育における教科横断的要素 (CLIL) について
—国定英語教科書や英語教授法書の分析を通して—」

二五 義博 (海上保安大学校教授)

【概要】現代のヨーロッパだけでなく、戦前の日本の英語教育においても CLIL の要素は多く見られる。本発表では、まず、明治時代の小学校用国定英語教科書である文部省著『小学校用文部省英語読本』全 3 巻 (明治 41～43 年) および教師用指導書を研究対象としながら、他教科内容 (算数、理科、社会科など) と言語の両面からの考察を行う。次に、忝田與惣之助著『英語教授法集成』 (昭和 3 年) をはじめとする英語教育論をもとに、英語科と他教科との関係がいかに強調されていたかを明らかにする。

参加費： 無料

問合せ： 日本英語教育史学会例会担当 (reikai@hiset.jp)

- ◆研究例会はどなたでもご参加いただけます (予約不要)。
- ◆例会終了後に懇親会を行います。こちらにも奮ってご参加ください。
- ◆行楽シーズンですので、宿泊をご予定の方は、お早めに各自でご手配ください。

【会場案内】 (東本願寺 website: <http://www.higashihonganji.or.jp/about/access/pdfs/map.pdf> より)



【交通案内】

- ・ JR 京都駅中央改札口より徒歩 12 分
- ・ 市営地下鉄烏丸線・五条駅 8 番出口より徒歩 3 分
- ・ 烏丸六条バス停より徒歩 1 分

EDITOR'S BOX 今年の秋田は雪が少ないと言われた昨年よりさらに少なく、今シーズンは雪かきが 3~4 回で済んでいます。秋田の中でも豪雪地帯として知られる横手出身の先生に状況を伺ったところ、横手も今年は雪が少なく、伝統行事の「かまくら祭り」へ影響が起きることも懸念されていました。ただ、雪の少なさに寂しさを感じるものの、それ以上に生活で助かることが多く、やはり雪が少ないのはうれしいとおっしゃっていたことが印象的でした。(若)

© 日本英語教育史学会会報編集部 (秋田大学 若有研究室 geppo@hiset.jp)